

1. 幼児・児童における未来型能力	必要な能力	運動能力(コーディネーション能力=動作の協応能力や調整能力)
	なぜ未来型能力か？	日本の子どもの体力が低下し、そのことが、学び働く意欲にも暗い影を落とし、国の将来の問題として看過できない事態にある。「からだと心」を育てる体育が、いまほど社会的に要請されている時代はかつてなかったとは過言ではない。
	現状の把握 (調査・実験などの結果)	コーディネーション能力育成などの体力低下
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	育成方法の提案・実施	2009年5月から2010年2月まで、月1回、コーディネーショントレーニングを保育園で指導。実施前後を比較。
	育成カリキュラム実施の結果	両足連続とびこし、とびこしくぐり、ジグザグ走のような運動能力は、5歳児段階における初夏から真冬にかけての半年間で、男女とも明らかに向上する。 25mの力走、思い切り遠くへ跳ぶ立ち幅とびは、男女差も少なく、半年間における伸びも少ない。 テニスボール投げは、すでに5歳児において、投げる距離もその半年間における伸びも、男児が女児を明らかに上まわっている。 けんけんは、5歳児で9割が到達していると考えてよいが、できない残りの1割は、6月からそうであるということに注意を要する。
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	現状の把握 (調査・実験などの結果)	環境の変化に伴った指導法の必要性
	育成方法の提案・実施	指導者育成課程在学中の学生と大型遊具施設「キドキド」とを双方向システムにより繋ぐテレビ会議
	育成カリキュラム実施の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に遊んでいる子どもを見ることができ大型遊具と運動についての理解を深めることができた。 ・親たちの心情を聞くことにより、母子の現状を知ることができた ・身体運動能力の開発という視点から、館長の説明により、大型遊具の特性として、室内にいながらもダイナミックに運動が展開でき、従来の室内運動とは異なる運動能力を育成できることが分かった